

教科	保健体育	科目	保健	学年	第1学年	系列 コース	共通
単位数	1 単位	教科書	現代高等保健体育(50大修館 保体-701)				
副教材	現代高等保健体育ノート(50大修館 保体-701)						

1. 学習の到達目標

(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 評価の観点

①知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。
③主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

3.学習の計画

学期	月	週No.	学習項目(単元)	学習内容
1 学 期	4月	1	2単元 安全な社会生活 事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法	安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを理解する。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることについて理解する。 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があることを理解する。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解する。心肺蘇生法などの応急手当についての技能を身に付ける。 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現する。
		2		
		3		
		4		
	5月	5		
		6		
		7		
		8		
	6月	9		
		10		
		11		
		12		
	7月	13		
		14		
		15		
		16		
2 学 期	8月	17	1単元 現代社会と健康 健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた 生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復 運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康	国民の健康課題や健康に伴って変わってきていることを理解する。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解する。 健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解する。 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解する。 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないことを理解する。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解する。
		18		
	9月	19		
		20		
		21		
		22		
	10月	23		
		24		
		25		
		26		
	11月	27		
		28		
		29		
		30		
12月	31			
	32			
	33			
	34			
3 学 期	1月	35	1単元 現代社会と健康 精神疾患の特徴 精神疾患の予防 精神疾患からの回復 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 健康に関する意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり	精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であることを理解する。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解する。感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解する。現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。
		36		
		37		
	2月	38		
		39		
		40		
		41		
	3月	42		
		43		
		44		
		45		

4. 評価の方法

総合的に定期考査の得点に加えて、課題学習、授業態度、小テスト等日々の学習活動について、各評価の観点（①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度）ごとに評価する。学年末の成績は、各学期の成績をもとに算出する。